

第10回JR肥薩線検討会議

日 時：令和7年2月27日（木）15：30～16：00

場 所：ホテル熊本テルサ 3階たい樹

【冒頭挨拶】

○軽部課長（国交省鉄道事業課）

肥薩線につきましては、昨年4月に鉄道での復旧を目指すとして基本合意がされているところですが、その後、熊本県、JR九州、沿線自治体の皆様方で熱心に御議論をいただきまして、本日の議題となっております「JR肥薩線復興アクションプラン（案）」を取りまとめていただいたものと承知しています。

本日はアクションプラン案と駅の考え方について御議論いただきたいと思います。これまでの会議と同様、実りのある議論ができるようお願いいたします。

肥薩線の日も早い復旧、そしてそれを人吉・球磨地域の復興・振興につなげていくことについて、ここにお集まりの皆さまの思いはひとつであると認識しています。国土交通省としましても、ローカル鉄道の再構築につきましては、令和5年に地域交通法を改正し、かつ、予算制度についても充実・強化を図りながら各地での取組みを進めているところです。肥薩線も含め、こうした地域の鉄道の再構築にしっかりと取り組んで参りたいと考えています。ぜひ肥薩線が再構築のひとつのモデルとなるように、国としてもしっかりと連携して参ります。

○亀崎副知事（熊本県）

本日は、お忙しい中にお集まりいただき誠にありがとうございます。皆様方の御支援・御尽力により、球磨川流域の復興が着実に進んでおりますことに、この場をお借りしまして心から御礼申し上げます。

昨年12月に前回の会議を開催しまして、本県から「JR肥薩線復興アクションプラン（素案）」をお示ししました。その内容について、JR九州の松下常務から、最終合意に向けて深度化すべき課題として3点のご指摘をいただきました。ひとつが、取組みに係る費用の明確化。もうひとつが、施策の実現に向けた進捗管理の方法。そして最後に、すべての駅を復旧する必要があるか、という3点です。

その課題について、今月17日に開催した地元市町村との再生協議会において、各取組みにおける初期投資と運営費用の所要見込み額や、プランの実現に向けた進捗管理体制を盛り込んだ最終案について審議を行い、取りまとめに至りましたので、本日はその内容をお示しさせていただきたいと思います。

また、復旧における駅の考え方については、全体的な考え方として、駅が持つ

「拠点性」と「にぎわい創出」の機能を高める取組みの実現性を総合的に勘案しまして、復旧後の駅の配置を検討するという考え方を共有したところです。最終合意に向け、さらに調整を進めて参ります。

県としましては、今年度末の最終合意に向け、いよいよ正念場を迎えていると認識しており、これまで積み上げてきた議論、昨年4月の基本合意、そして今回お示しするアクションプランの基本理念でもある「マイレール意識の醸成による日常利用の創出」と「観光を軸とした日本一の地方創生モデル」をしっかりと実現し、球磨川流域の復興に不可欠なＪＲ肥薩線の日も早い復旧に向け、誠心誠意全力で取り組んで参りますので、どうぞ皆様方の御支援・御協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。

－ 熊本県から資料説明（資料１－１、資料１－２、資料２）－

【意見交換】

○松下総合企画本部長（ＪＲ九州）

本日、熊本県から「ＪＲ肥薩線復興アクションプラン（案）」をお示しいただきました。沿線自治体の皆様で構成されるＪＲ肥薩線再生協議会などでの熱心な議論を経て取りまとめられたことに対して、関わられた皆さま方に心より感謝申し上げます。

このアクションプラン案については、前回の第９回ＪＲ肥薩線検討会議でお示しいただいた「ＪＲ肥薩線復興アクションプラン（素案）」に対して当社からお示した課題について、その後さらに関係者の皆様で議論され、整理されたものと受け止めているところです。その内容については、改めて持ち帰りまして社内ですっかりと検討させていただきたいと思っております。

また、熊本県から「ＪＲ肥薩線の復旧における駅の考え方」をお示しいただきましたが、復旧や運営のあり方については基本合意書第４項に記載の通り、最終合意までに具体化をしていく必要があると考えています。最終合意については、今年度末を目指しているところですが、そのためには今後速やかに事務レベルでの議論を通じて、運営を再開する具体的な駅が示される必要があると考えています。当社としましては、運営を再開する駅が将来にわたって地域の皆さまにどのように利活用されるかが重要と考えていますので、そのような視点から協議をぜひお願いしたいと思っております。

さらに、熊本県におかれましては、最終合意に向けてその他の基本合意書に記載の内容についても、具体化に向けて協議を進めさせていただきたいと思っております。復旧する肥薩線がお客さまに愛されて持続可能な路線となるよう、引き続き協議のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

○亀崎副知事（熊本県）

J R九州の松下常務からいただいた御発言につきまして、最終合意に向けた県の考えを申し上げます。

まず、アクションプランについては、内容を社内でご検討いただくとのことでした。私ども地元としましては、昨年の7月以降、計17回、ワーキンググループで議論を重ねて作り上げました、皆の思いが詰まったプランであります。J R九州とともにしっかりと実現したいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

次に、復旧後の駅について、運営を再開する駅が将来にわたって地域住民にどのように利活用されるかという観点から、運営を再開する具体的な駅が示される必要があるという御意見をいただきました。現在、駅の「拠点性」と「にぎわい創出」の機能をどのように活かしていくか、地元市町村とともに、一つ一つの駅について整理・検討をしているところです。最終合意までに具体的な駅の配置をお示しできるよう、全力で取り組んで参ります。

また、最終合意に向けて、その他の基本合意書に記載の内容の具体化についても、引き続き真摯に協議を進めて参りますので、どうかよろしくお願い申し上げます。

○森田局長（九州地方整備局）

地元の皆様とJ R九州の方でしっかりと議論を進めて、取りまとめていただき、最終的に肥薩線の復旧がより良く進めばと考えておりますので、よろしくお願いします。

○原田局長（九州運輸局長）

非常に短期間の中でこれだけ具体的なアクションプランが取りまとめたことに、改めて皆様の御努力に敬意を表したいと思います。

九州に限らず全国の鉄道をどのように維持していくのか、または転換していくのかという議論がある中で、肥薩線はまさにリーディングケースになる内容だと思っています。観光だけでなく日常利用も含めた具体的な施策を整理した上で、さらにこの時点で初期投資や運営費用まで記載してあるケースは中々なく、関係者の皆様がこの問題を真摯に受け止めた覚悟の表れではないかと思えます。引き続き最終合意に向けた議論を関係者で進めていきたいと思えます。

また、このアクションプランを実施していくにあたり、非常に厳しい面もあると思えます。人吉・球磨地域も人口減少が進む中で、肥薩線をどう維持していくのか。また一方で、好調なインバウンドをどのような形で人吉・球磨に呼び込ん

でいくのか、そういう明るい面もあります。色んな要素を考えながらこのプランを実現していくというフェーズに入っていると思います。九州運輸局としても、皆様と様々な面で協力しながら、できる限り御支援差し上げたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○軽部課長（国交省鉄道事業課）

本日は、有意義な意見交換ありがとうございました。

本日の会議におきましては、熊本県からアクションプランの最終案が示されました。日常利用と観光利用それぞれにつながる具体的取組みが提示され、一つの施策の実施に当たり、「いつ」、「誰が」、「何を」実施するか責任を明確にすると共に、進捗管理の考え方も明示され、肥薩線の復旧と合わせて地域が着実に発展できるプランだと認識したところです。ＪＲ九州からは、社内に持ち帰り検討するとの御意見がありましたので、次回検討会議においてコメントいただきますようお願いいたします。

次に復旧に際しての駅の配置の考え方についてですが、熊本県から、現在沿線自治体との間で調整を進めていると報告がありました。ＪＲ九州からは、運営を再開する駅が将来にわたって地域の皆さまにどのように利活用されるのかが重要であり、運営を再開する駅が示される必要があるとのコメントがありました。熊本県におかれましては、引き続き自治体との綿密な調整をお願いいたします。

また、復旧や復旧後の運営のあり方については、熊本県とＪＲ九州との間で調整が進められていると報告がありました。引き続き、最終合意に向けた詰め作業をお願いいたします。

今回の検討会議では、最終合意に向けて深度化するとしていた項目、「観光を軸とした日本一の地方創生モデルの実現」と「マイレール意識の醸成による日常利用の創出」の具体化、復旧や復旧後の運営のあり方の調整について整理をした上で、検討会議としての結論を得たいと考えております。

国土交通省としましても、九州地方整備局、九州運輸局と連携してしっかりサポートして参ります。本日はありがとうございました。

○事務局（国交省）

最後に、この会議の後に予定しております記者ブリーフィングの内容についてご説明いたします。

まず、熊本県からアクションプランの最終案が提示されました。ＪＲ九州からは「前回検討会議での意見が整理されたものと受け止め、社内に持ち帰り検討する」との意見がありました。

次に、復旧における駅の配置の考え方については、熊本県から「現在沿線自治

体との間で調整を進めている」との報告があり、ＪＲ九州からは「運営を再開する駅が地域の方々にどのように利活用されるかが重要。最終合意までに運営を再開する駅が示される必要がある」という意見がありました。それを受けて熊本県からは「示すことができるようしっかりと取り組んでいく」とのコメントがありました。

復旧や復旧後の運営のあり方についても、熊本県とＪＲ九州との間で調整が進められているとの報告がありました。

最後に、次回検討会議で最終合意に向けて深度化するとしていた項目を整理して、検討会議として結論を得ることになりました。

以上